

風姿花伝 七

別紙口伝 その八の二

このことは、ほかにもたとえば、**弓矢**など武芸の手立て、つまりはその方法や心得においても言えることで、名将の作戦や計画によって、思いもかけないような方法によって強敵に勝ったりすることがある。これは負けた方から見れば、普通であれば当然こうなるであろうという**理**を外れた珍しい妙手に**化**かされて負けたのだと言わざるを得ない。これは武芸、芸能を問わず、すべて道において、**勝負に勝つ**ための理であって、このような方法も、**落居**、すなわち勝負がついた後で、そういう計りごとであったのかと気付いてみれば、何とすることもないことであつたとしても、そのことを知らなかったからこそ負けたのである。

そういうことであるから、代々武芸や技芸を受け継ぐ家であれば、何か一つくらいは**秘事**として伝え残すべきであると知るべきである。それは単に秘事を公にしないということだけではなくて、そのような秘事を知っている者だということさえ知られてはならない。それが知られてしまえば、また自分がそういう存在で、それを秘しているという心を見抜かれてしまえば、相手は油断なく用心もすれば、そういう自覚や気配りを持って自ずと対するようになってしまう。特に用心などしていなければ、こちらが勝つことは容易であつて、相手に油断をさせて勝つ、珍しいこと、新しいことで勝ちを収めることができるのであればそれを効果的に用いない手はない。したがって、我が家の秘事も、人に知らせないということによって、私を家を継ぐものとして生涯、花を保護していこうと思う。秘すれば花。秘してこそその花であつて、そうでなければ花ではない。